

2022.06.12. 何があっても喜ぶ

Mac 牧師

日曜日は、2つの礼拝があり、第一礼拝は通常「聖書預言・アップデート」第二礼拝は「聖書の学び」に専念します。今朝の第二礼拝は、「ハバクク書3章」17節から最後の19節迄を共に学びたいと思います。聖書朗読と祈りのため、可能な方はご起立ください。繰り返しますが、「ハバクク書3章」17節からです。神の御言葉をお読みします。

ハバクク 3

17 いちじくの木は花を咲かせず、ぶどうの木には実りがなく、オリーブの木も実がなく、畑は食物を生み出さない。羊は囲いから絶え、牛は牛舎にいなくなる。

18 しかし、私は【主】にあって喜び躍り、わが救いの神にあって楽しもう。

19 私の主、【神】は、私の力。私の足を雌鹿のようにし、私に高い所を歩ませる。指揮者のために。弦楽器に合わせて。

祈りましょう。主に祝福を願いましょう。

天のお父様。今朝、あなたの真理の御言葉と、あなたの民の私たちへのメッセージを求め、聖霊の御力を確信し、あなたの下に來ました。どうか、受け取る聞く耳を与えてくださいますように。今朝、私たちが共にいる中で、あなたがなさろうとしておられることに感謝します。あなたの強さと御力によって、私たちの前を進んでください。救世主イエス・キリストの力強い御名によって祈ります。アーメン。

ご着席ください。ありがとうございます。今朝の、第二礼拝のタイトルは、「何があっても喜ぶ」このような時代に、ふさわしいタイトル、学びであることを祈ります。私たちはクリスチャンとして、たとえ周りで何が起こっていても喜びを持たなければなりません。なぜなら、その喜びが私たちの中にあるはずだからです。これは、ステージで走り回るピエロのように、多幸感や興奮を呼び起こすようなものではありません。そういうことではありません。全く異なります。これは、聖なる方、イエス・キリストを知る事です。主を知れば、すべてが変わります。主を知れば知るほど、私たちは変わります。イエスを知ることは、決して絶えることのない喜びを知る事です。私たちにはそれがあります。荷物を纏めて、終わりますでしょうか。つまり、それが最重要項目です。イエス=喜び。それが、私たち全員へのメッセージです。イエス=喜び。それが本当の喜びで、どんなことがあろうとも、真の生ける神からのみ得られます。

今朝の箇所にある詩は、預言者ハバククが書き、何度も何度も歌われた詩です。彼は周りで起こっているあらゆる問題にもかかわらず、主にこの賛美の歌を歌いました。彼の周りでは、様々なことが起こっていました。邪悪な人からの多くの悪事がありました。彼らは神の民、聖なる民として選ばれていたのに。それでもハバククは、自分の国が年々衰退の一途たどるのを見ながらも、主への信仰のゆえに主を褒めたたえます。

そこで、主のお許しを得て、ハバククについて分かっていることと、ハバククの預言者としての働きに関連する年表を簡単に説明します。今日の箇所を特に17節に関連する通り解説し、祈りながら、こんにちのアメリカにおけるいくつかの類似点を見ていきたいと思えます。そして最後に、主が全てを成就されることを知りながら、私たちの賛美も同様に、どう確かであるべきかで締めくくります。それだけで私たちは、何があっても大きな喜びを感じれるはずで、それを踏まえて、「ハバククの学び」を始めましょう。ご存知の方も多いと思えますが、ハバククという名前前の意味は「抱擁」です。そして、これこそが正に、ハバククが神との関係において発揮する性質です。彼は主を抱擁します。彼は主に、主から与えられ

る御言葉の1つ1つにしがみつきます。だからこそ、彼の生きていた時代に、あのように主を賛美することができたのでしょう。これは、主が故に、主にあって彼の喜びの喜び、賛美の賛美だったのです。ハバククが預言したのは紀元前609年から598年までとされています。邪悪な王、エホヤキムの治世、邪悪な支配下です。J.D.牧師の聖書の学びに参加されている方は現在、エレミヤ書を学んでいますね。J.D.牧師の学びが36章に入ると、この邪悪な王が、神の御言葉を燃やそうとした事が分かります。エホヤキムは、自分に対して語られたエレミヤの預言全て、巻物を見て動揺し、燃やしてしまいました。しかし、神は、エレミヤにそれらを再び書き直させ、さらにいくつか書き加えさせられました。そして、すべてが現実となるのです。神の御言葉を取り除くことはできません。同じことを世がやろうとしています。すべてのそんな試みは無駄です。神の御言葉は必ず実現します。こんにち人々はそのことを肝に銘じるべきでしょう。しかし、ハバククだけでなく、他の預言者たちもこのような邪悪な支配下にいました。つまり彼らには主しかおらず、結局、私たちと同じように必要なのは主だけです。この聖書の3つの章の中に、私たち全員、特に牧師にとって完璧な概要があると私は考えます。なぜなら、この書がどのように構成されているかを分解してみると、預言者が祈り、説教し祈り、そして賛美したことが分かります。それが従うべき模範であり、彼は何が起ころうともこれを実行しました。彼はこれから起こることを告げられましたが、どれも良いものではありませんでした。「バビロン人がやって来て、民は囚えられ、地は荒れ果てる。」ハバククはその理由を知っていました。民が神に背を向けたからです。私たちはこれを何度も何度も聞かされています。彼らは、異教徒の習慣を取り入れました。彼らは、神の聖なる民ですよ。異教徒の習わしとは、他の神々に仕え、忌まわしい行為をし、子どもを殺して生け贄とし、悪の限りを尽くしていました。地は、不法と暴力に満ちていました。そのため、日が暮れてからの外出は危険でした。そこまで悪化し、さらに悪いことに、白昼堂々、他人の家や店に押し入って好きに強奪する者がいても、人々は、なすすべなく見ているだけでした。質問させてください。(笑) これって、聞き覚えがありません？ —(笑)— 信じがたい話ですよ？

あらゆる分野の統治が腐敗していました。邪悪な王から、邪悪な祭司、邪悪な偽預言者まで。悪が、政府的、宗教的、社会的な枠組み全ての面に浸透していました。神の人ハバククが、神を抱擁するのに対し、すべての人々は悪を抱擁し、悪を教え、悪を平気で行っていたのです。それが当たり前だったのです。それが当たり前になったのです。キーワード：「なった」なぜなら、以前はそうではなかったのです。何年にも渡ってそう行って行きました。時間をかけて....ハバククはそれを見ていました。私たちの多くも、これを長年にわたって目撃してきました。いずれにせよ、少なくとも国家が滅亡する時よく見られるパターンです。本文17節、もう一度、御言葉をお読みします。

「いちじくの木は花を咲かせず、ぶどうの木には実りがなく、オリーブの木も実がなく、畑は食物を生み出さない。羊は囲いから絶え、牛は牛舎にいなくなる。」それが要約です。それがすべてです。この節を見ると、当時のユダヤ国内の農業社会に関連する6つの項目が記されています。これらのリストアップの仕方が興味深いのは、最も重要でないものから最も重要なものへと向かっている事です。また、物理的なものでありながら、霊的な要素も持ち合わせています。社会的な側面を1つに絞るとしたら、その1つ1つを長期に渡って削除する事が、より大きな影響を与え、それは経済分野でしょう。ハバククは、聖霊に促され、この方法で、この順序で書きました。なぜなら、これは資源の減少を示すと同時に、彼らの祝福が取り除かれている様に見えます。さて、このようなことが起こると、預言者たちの警告とあいまって、人々は耳を傾け、悔い改めるはずでした。しかし、彼らはそうしませんでした。彼らは、自分たちが

立ち帰るため、また自分たちの資源を回復させるため、神が必要であることが分かりませんでした。しかし、言っておきます。真の生ける神がおられなければ、経済不安があらゆる社会問題を引き起こします。考えてください。弱肉強食になりますよね。みんなが自分自身のために、貧しい人、未亡人、孤児は取り残され、老人と病人は、自分のことは自分でやれとなる。人は、隣人や、自分の家族をも信じることができな。こうなってしまう。神が取り除かれれば、悪が入り込みます。そして、悪が持ち場につくと、神は、御手の祝福も取り去られます。ですから、この箇所に関するこのテーマでいくと、いちじくの木が最初に花を咲かせなくなり、次に、ぶどうの木が実を結ばなくなります。イスラエルで、いちじくはご馳走とされ、ぶどうは日々の甘味な飲み物として、また祝宴や祭事のためのワインとして利用されていました。これらは豊かな実りで、繁栄の果実でした。皆さん、ついてきていますか？ 繁栄です。しかしある時期から、いちじくの木も、ぶどうの木も実を結ばなくなりました。このような甘味な繁栄の果実が、民からなくなりつつあったのです。その理由は、先ほど話した通りです。私たちは皆、繁栄すると何をやるのか、何が起こるのかを知っているはず。それは、私たちが繁栄させてくださった方のことを忘れてしまうのです。もはや、神を気に留めません。神は後回しで、神を後部座席に座らせています。お～、助手席に座るのは誰だと思いませんか？ 悪の手先か、手下かです。主はそんな所に乗られません。汚れた場所に乗られません。飛び出されます。私たちが手下から指示を受けるようになるのに、そう時間はかかりません。そして、自分が疲れてくると手下が言います。「大丈夫、僕が運転するよ～。」すると悪魔は、私たちに、多少のいちじくとぶどうを与え、悪魔が運転する間、私たちは、その甘味に酔いしれます。やがて、私たちは酔っぱらって道に迷い、何が起こったのか分からなくなる。そして最後には、すべての甘味が苦味に変わります。でしょ？ それは、個人のレベル、個々のレベルの話です。しかし、ここで話しているのは国家的規模で、その霊的な影響は計り知れません。繰り返しますが、聖書全体を通して、イスラエルという国を指すとき、御言葉は、特にいちじくとぶどうの木を、神の民が神に従ったときに与えられる神の特別な祝福の1つとして象徴します。このことは、「第一列王記 4 章 25 節」にあります。神の御言葉をお読みします。

I 列王記 4

25 ユダとイスラエルは、ソロモンの治世中、ダンからベエル・シェバに至るまでのどこでも、それぞれ自分のぶどうの木の下や、いちじくの木の下で安心して暮らした。

「それぞれ自分のぶどうの木の下や、いちじくの木の下で」皆さん考えてください。ダンからベエル・シェバまでです。この言葉は聖書の中に7、8回出てきますが、「隅々まで、全地」という意味です。今、それが繁栄です。全ての人に、繁栄があります。これは祝福です。従順の中にこそ、繁栄があります。平和は、従順の中にあります。そしてその従順は、真の生ける神に対してです。これが民に対する神のご性質であり、変わることがありません。ハバククの時代には、ソロモンの時代のような繁栄はないとしても、主に従う時は、やはり祝福されていました。しかし、彼らは主に背を向けることを選びました。そしてある時、主はその繁栄の実を取り去られます。まだ残っているように見えても、惑わされないのでください。違います。従順さがなければ、神はそれを取り上げられます。神は、長い間ご忍耐されますが、やがて取り除かれます。「ホセア書 2 章 12 節」の御言葉を参照します。お読みします。神が語っておられます。

ホセア 2

12『これは、愛人たちが払ってくれた私への報酬』と彼女（イスラエル）が言った、あのぶどうの木とい

ちじくの木を荒れすたらせる。わたしはこれを林に変えて、

野の獣が貪り食うようにする。基本的に、神がここで仰っているのは、「あなたがたは、あの偽りの神々がこの繁栄を与えたと思っているのですか？ そうなのですね？ 分かりました。あなたがたは果実が育っているのを、見ていて、あなたがたは既に収穫するための籠を準備しているから、収穫の時期まで待ちきれないのだね。しかし、わたしはそれを森に変え、獣がそれを食べて、喜ぶだろうね。しかしあなたがたはそうではない。それを感じ取るだけだね。獣たちは楽しむけど、あなたがたは楽しめない。一見うまくいっているように見えるが、そうではない。良いことばかりではないのを伝えるため、わたしは預言者を送ります。しかし、あなたがたは、まだ自分が繁栄していると思っているので、わたしの言葉に心を留めない。もしかしたら、あなたがたはこれで気づくかもしれないね。」繰り返しますが、国家繁栄の危険は、神を忘れることにつながり、そうすると高慢な国になります。でしょ？ それが今のアメリカの現状です。今、私たちはその高ぶりを、あからさまに見せびらかせています。事実、この国の指導者たちは、まさに今月を「プライド月間」と位置づけています。聖書を知っている人なら、これは、あなたの所属するコミュニティが選ぶべき名称ではありません。これは、神の御言葉によると、あなたがた自身に対する告発です。アメリカよ、プライドがおもな問題であることをどうか知ってください。私たちの繁栄とそれらを取り除かれ続ける中、この国が目覚まし、謙虚になり、真の生ける神を求めるには何が必要なのか。このコミュニティは、神の御言葉がプライドについて何と仰っているか知っていますか？ たくさんあって、どれも良くありません。その中でも、一番適切と思える節を取り上げます。「箴言 16 章 18 節」です。神の御言葉をお読みします。

箴言 16

18 高慢は破滅に先立ち、高ぶった霊は挫折に先立つ。

これらは神の御言葉で、必ず実現します。彼らの高ぶりがすべてを滅ぼします。「プライド月間」あなたがたは見捨てられた心の神を失ったのです。神と御言葉を台無しにするのですか？ これが根源です。決して偶然の産物ではありません。これはレインボーのように意図的で、すべて神に逆らっています。神が最終的な言葉を下されます。ハバククが、神の御霊で語るように、神の御言葉通り、すべてが行われました。「高慢は破滅につながる。」私なら、その列車から降ります。17 節を見返すと、ハバククは、オリーブの木も実がなく、畑は食物を生み出さないと書いています。当時は小麦、大麦、そしておそらくトウモロコシの産地として知られていました。その詩的な性質を持ちながら、私たちに分かる明確な描写を指し示し、描いています。これは、基本的な生活必需品が取り除かれるのを物語っています。つまり、オリーブオイルは日常の料理にも使われ、同時に油注ぎにも使われました。トウモロコシや小麦、大麦は、国家の食糧であると同時に、取引の主要な供給源でもあったのです。これは、干ばつや飢饉による不足、あるいは敵のことを語っているだろうし、その全てです。要するに、物事は悪い方へ悪化して行くのです。さて、繁栄の喪失は、高慢な国民に悔い改める必要を認識させる為に十分、またはあるいは大きな出来事ではなかったのかもしれませんが、しかし、日用品の損失は少なくとも注目を引いたでしょう。こういう質問を人々がし始めると考えてください。「どうなってる？ 農作物に何が起こったの？」あるいは、「なぜ私たちにこんなことが起こるの？ 私たちは神の民なのに。」しかし、ここが問題です。「あなたがたは自分の神を求めています。他の物、政府を信用するのですか？ つまり、他の神々を？」でしょ？ 誰もが自分がしたいことをしていました。自分の目から見て正しい事を。無法地帯に導かれ、その無法地帯で生きていました。そして日々の資源が、時間とともに枯渇したなら、彼らの経済システムも、時間と

ともにおかしくなったと見て間違いないでしょう。ではどうなるのか？ この状況で何が行われているのでしょうか？ お～、食料と食料の価格が上昇し、収穫するための設備が高騰し、借りる人には、インフレ率の上昇、取引慣行の上昇、増税。そして、設備のない人は、盗み取る事を始めます。そして、働くより盗む方が楽だと分かると、お～社会の大部分でそれが普通になってしまったのです。こんな事を話している自分が信じられません。これが起こっている事だからです。ハバククは、これをその衰退期に他に起こっていることも含め、見ていたのは間違いないでしょう。それで彼はどう感じたと思いますか？ これは実在の人物についての話です。書物だけではありません。これらは、彼が自分の国の衰退を見届けた実話です。自分の愛する国が自滅していくのをなすすべもなく見ているのです。また「ホセア書」には、彼らの破滅の根源の答えになる有名な一節が収められています。「(ホセア書) 4章6節」神の御言葉をお読みします。

ホセア 4

6 わたしの民は知識がないので滅ぼされる。あなたが知識を退けたので、わたしもあなたを退け、わたしの祭司としない。あなたがあなたの神のおしえを忘れたので、わたしもまた、あなたの子らを忘れる。繰り返しますが、これが彼らの破滅の根源で、イスラエルの最も聖なるお方の知識の欠如です。彼らは神の知識、その救いの知識がなかったのです。拒否したのです。ある時点で、彼らに語られましたが、結局彼らは拒否しました。ここに書かれている内容からすると、これは何か秘密があるわけではありません。神の知識は、彼らがそれを受け入れるか拒否するかの機会を与えられるレベルがあり、知らされてきました。つまり拒否が選択され、破壊が結果でした。そして忘れてはならないのは、ハバククは、自分が愛した国とその民に何が起こるかを知っていたのです。そのイメージを心に焼き付けてください。私がここで描こうとしている描写は、こんにち私たちが共感できるはずの、国家の衰退の描写です。実際、多くの人が否定していますが、世界全体が衰退しています。しかし、真実です。どれも良くなっていません。実際、良くなっているのは悪だけです。ヤバイでしょ？ でもこれは、驚くことではありません。しかし私たちは、この種の悪を見たり、その周りにいることに決して慣れてはなりません。墮落した世であっても、私たちは目にした悪を普通に受け入れることはできません。「ああ、そんなに悪くないね～」 「もっと酷いを見たことがあるよ。」など。聞いてください。悪は悪です。ほんの少しの悪を受け入れようとした途端に、全てを受け入れるかもしれませぬ。どれもこれも悪はダメです。それが入口の問題です。こんな感じです。「ちょっとだけ～そんなに悪くはないから～」そして、誰かが悪知恵を働かせにやってきました。「ああ、彼らが悪をしているのなら、私も悪をしたっていいんだ～」考えてください。最初はレインボーの旗、次にレインボー旗に色を追加し、それから...皆さん、こんにちの国旗を見たましたか？ 500色も使っていて、すべて悪ですよ。こんなにたくさん色があるとは思いませんでした。悪が手を取り合っている、それは決して続かないでしょう。この世は、人間が与えられた解決策には目を向けず、解決策を人間に求め続けます。私たちの手本は聖書です。そこには聖なる方の知識が宿っています。そして、秘密ではありません。神はこれまでも、そしてこれからも、それを知らしめて下さいます。この知識は、すべての人に有効で、知ることができるものです。特に、ここアメリカで。しかし、ハバククと同じように、物事は悪い方へ悪化して行っているのを私たちは目にしています。なぜなのか？ 私たちはまだ神に目を向けていない。そしてハバククの時代に、民の繁栄が貧しくなり、やがて囚人となるのを見たようです。なぜなら、本文 17 節にある最後の 2 つの項目が、「羊 (の群れ)」と「牛 (の群れ)」だからです。これを見ると、これらの高価値の資産や資源は、地の中の権力者や富裕層を排除することと

同じです。羊や牛の群れは用途は様々ですが、当時は富の源でした。結論は、結局大きい者も小さい者も、誰もが影響を受けるということです。富には利点があります。特に人間を相手にする時には。しかし、神に賄賂は通用しません。いくらたくさんケーキがあっても、主には通用しません。そうはいきません。さてここで、富裕層は多少耐えうるかもしれませんが、でも終わりの時、囚われの身となって消えていきます。やがて、彼らの贅沢な生活様式は終わり、不法状態、飢餓、破滅の影響をすべて受けることとなります。誰も免除されません。「箴言 11 章 4 節」にあります。神の御言葉をお読みします。

箴言 11

4 財産は御怒りの日には役に立たない。義のわざは人を死から救い出す。

ですから、ハバククがユダで過ごした年月に見たものについて、私たちの心の中に鮮明に刻むことを祈ります。考えてください。この書の冒頭から読むと彼の見ているものに対する心の傷みを感じます。そうして、彼は神に問いかけながら、力強く主に祈るのです。主に泣き叫んでいます。「主よ、あなたは正しいお方です。」何度も何度も。そして、神がなさろうとされておられたことの結論が、これでした。主はこう仰って、終わりでした。「破滅が起きる。」そして再度、ハバククはその理由を知っていました。そして今、すべての悪が迫り、地を徘徊し、不法、暴力がはびこり、バビロン人が起こされ、地を荒廃させようとしている。そして、この預言者は祈り、説き、祈り、今、彼は賛美しようとしています。本文 18～19 節にある通りです。もう一度、御言葉を読みます。

ハバクク 3

18 しかし、私は主にあって喜び躍り、わが救いの神にあって楽しもう。

19 私の主、神は、私の力。私の足を雌鹿のようにし、私に高い所を歩ませる。指揮者のために。弦楽器に合わせて。

18 節の最初の御言葉にご注目ください。ちなみに私たちの英訳で、「yet (しかし)」という単語があります。この言葉の短さがわかりますか？ ここで使える最も短い言葉の一つだと思います。「nevertheless (それにもかかわらず)」と言われるより重みがあります。でしょ？「however(しかしながら)」「hitherto (これまでに)」「still (それでも)」いいえ、「yet (しかし)」です。彼が「yet (しかし)」と言う必要があるのは、早く本題に入りたいからです。「しかし、私は主にあって喜び踊り、」と彼は言い、喜びのために時間を無駄にしません。そして、この「rejoice(喜び踊り)」は、聖書の中の多くの箇所使われている「joyful (愉快的)」と同じ言葉です。ヘブライ語では、大きな喜びを祝う状態を意味します。これは、サウロが御霊を受けたときに、踊りながら回転しているのと同じタイプの喜び方です。歓喜、主における喜びです。別の例えが「詩篇 149 篇 5 節」の御言葉と同じ言葉です。神の御言葉をお読みします。

詩篇 149

5 敬虔な者たちは栄光の中で喜び躍れ。自らの床の上で高らかに歌え。

これは安息の床もしくは、苦悩の床かもしれません。「敬虔な者たちは栄光の中で喜び躍れ。自らの床の上で高らかに歌え。」なぜなら、主を喜ぶことに事情は関係ないからです。私たちの神は、一字一句に至るまで、すべての御言葉を忠実に実現されるお方です。実現しないことは何もありません。私の人生には、一時的な苦悩がたくさんあり、中には、復活のこちら側では決して乗り越えられないものもあります。それでも私は主にあって喜びます。なぜなら私はこの後に何が起こるか知っているからです。皆さんも知っています。私たちが、どんなことがあっても、すべての人が見て、その喜びを目撃できる魅力的な人生書簡として生きられるよう、みんなが祈るのを祈ります。これは、聖徒が主にあって喜ぶことの一歩の

側面であり、預言者ハバククが経験し、味わっていたのはまさにこれでした。このような喜びは、こんにち、真の生ける神のことに關して、ほとんど見ることはできません。それは悲しいこと、本当に本当に悲しいです。私は、実のないイベントをして興奮している人を何度も見かけたことがあります。いつあれをやる、これをやるというあの盛り上がりは、私には奇想天外でしかありません。そして、神のこととなると、その喜びはまるで葬式みたいに見えます。それがあなたの仕える神ですか？ どれほど、あなたは主に喜びを与えているのですか？（無関心で言う）主をたたえます。主をほめたたえます。はい、イエスよ。はい、イエスよ。オーケー、こう言っておけばみんな納得します。私たちは本当に主にあって喜んでいるのでしょうか。それとも、ただのチェック項目（お役目）ですか。主を喜ばせることを恐れているのですか？ 今、NBAのファイナルが行われていますよね？ 自殺する人がいるのに、バスケット（試合）のために歓声の声を上げる。なのに、私たちは主にあって、喜びを見出すことができないのですか？ ハバククは、主がユダになさろうとしていることのために、主にあって喜んでいるわけではありません。違います。思い出してください。彼は人々を愛しています。彼は自国を愛しています。しかし、それ以上に自分の公正な神を愛しており、何があっても真の生ける神への信仰のゆえに、ハバククは生きるのだと分かっています。だからこそ、「わが救いの神にあって楽しもう。」を歌うことができるのです。ここでハバククが抱擁しているのは、主を救い主としている事です。神が自分を救ってくださると分かっているからです。同じように、神が私たちを救って下さる、救って下さったから、私たちは喜ぶべきです。ハバククには、この状況はどうすることもできないのです。ユダの地で皆無です。彼にはどうしようもないのです。しかし、真の生ける神のなさることにどう反応するかは、自分でコントロールできます。ご存知の方も多いと思いますが、ハバククはよく引用される預言者です。

「正しい人は信仰によって生きる。」（2：4参照）という言葉語を語っています。そしてこれこそが、今、彼が証明していることです。何も変わりません。事実、もっと悪くなります。しかし、救いの神への喜びを持つことが、すべてを解決します。さてそうは言っても、このようなことが続く中、ハバククが悲しい思いをすることがないと思っはけません。そうではありません。しかし、彼の感情は、神との関係によって抑制されていました。ここで、私たちは主との歩みの中で、いくつかの質問をし、考える必要があります。主との関係は、主にあって喜び続けるため、私たちの感情が勝るのか？ それとも、自分の感情のすべてを、時間とともに、喜びを奪うよう許すのか。自分の感情のせいで主にあって喜べないのです。それが問題です。では、私たちの心はどこにあるのですか？ 私たちは、神の御約束を知らないのですか？ 主との距離が近くないから、主にあって喜びを感じられないのかもしれませんが。私たちが主のことをそれほどよく知らないからでは？ でしょ？ 私たちは皆、その時々があります。しかし問題は、自分の感情に溺れてほとんどあるいは全く喜びがない事です。世の中がおかしくなってるのですから、主にすがらないと、おかしい仲間に入ることになるのではないですか？ そこが狙い目です。もしあなたに喜びがないのなら、まずあなたがすべきは、私がする必要があるのと同様、私の喜びが奪われるなら、主に近づき、どんなことでも、どんなやり方でも一日中主の御顔を求めることです。日曜日だけではありませんよ。「日曜日だけ喜ぶ人」なら想像つきますけど。ああ、火曜日になると、こうなる。（イライラで感情に走る）日曜日だけでなく、毎日、主を喜ぶ必要があります。ぜひ、そうしてください。私たちは、主と主の最終的な勝利に頼らなければなりません。そうでないと、私たちの人生は落ち着きなく、憂鬱になり、感情に支配されます。私たちは、自分自身の肉的な性質と戦うため、神の御霊において歩まねばなりません。そうすることで、ハバククのように、主が提供くださるもの、主が私たちの生活で、また

私たちを通してしてなさることを確信できます。本文 19 節の描写を見てください。

「私の主、神は、私の力。私の足を雌鹿のようにし、私に高い所を歩ませる。指揮者のために。弦楽器に合わせて。」

ここから学びましょう。主なる神は、私たちの力です。繰り返しますが、私たちが耐え忍ぶことができるのは、主の御心による、主の御力です。皆さん、分かりますか？ 主の強さです。そしてそれは、私たちが置かれているすべての状況に関しても言えます。私は何度、主に向かって叫び言ったことでしょうか。

「主よ、なぜですか？これはあまりにも難しく、私には無理です。」ええ難しいです。私は自分の力でやろうとしてるからです。しかし、あなたが主の御力に委ねるとき、主にとって何が無理だというのでしょうか。何もありません。神に委ねましょう。また、ハバククが「私の足を雌鹿のようにし、私に高い所を歩ませる。」と言ってるのであって、ハイヒールで歩くことを言っているわけではありませんよ。一(笑)一最後にイスラエルに勝利が与えられ、神が最初から御約束された土地が確立されると確信している事を語っているのです。勝利は目前です。もう来ます。彼はそれを確信し、同時にそれを見ることを確信していました。さて、私にとってこれはこんにちの神の民に適切な御言葉です。ハバククのように、私たちは、かつて起こった事を見て、一時の危機を遥か超え、永遠のキリストにあって喜ぶ必要があります。私たちの心は、救いの神に向いていなければなりません。ところで、主は私たちのために、必ず見ることできる場所を用意してくださっています。では、なぜ私たちは、世が私たちの喜びを決めるのを許すのですか？ それは世の中がどうなっているか、どうなっているかが前提ではありません。この場所は狂ってます！ このいかがわしい所の一員になりたい人は私にはどうしても、理解できません。事態が悪化しても、主の御約束を喜びましょう。私たちがそれらの約束を本当に信じるなら、主における私たちの喜びがそれを反映するはずです。この世が暗くなればなるほど、私たちがより輝ける機会になります。すると人々は注目し始め、このような狂気的なことが起こっている中、私たちがどのようにしているのかその方法が知りたくなります。そして、何があっても、このような喜びを下さるのは私たち一人ひとりが誰を信じているからか、確信を持って答えられるようになります。そこが、私たちの立ち位置です。お立ちください。祈りましょう。

天のお父様。改めて主よ、あなたがどれほど忠実な方であるか、心から感謝します。そして主よ、何があっても、あなたにおいて喜べる心と願いをお与えください。あなたは何が起こるか私たちにもう仰いました。驚きません。ですから主よ、それを知った上で、私たちの喜びを増してください。私たちが毎日あなたに叫び求め、あなたの御顔をより真剣に、より早く求めることができるよう助けてください。あなたの御言葉が仰います。私たちはあなたを見つけ出せ、日々ますますあなたを必要とすることを。

ですから主よ、これからも喜び、歓声を上げ、弦楽器に合わせて歌い続けられますように。あなたが私たちに与えてくださった御約束に心から感謝し、その日を待ち望みます。イエス・キリストの力強い御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7